



FSCだより

北里大学獣医学部 附属フィールドサイエンスセンター

第 63 号 2016. 11. 18

FSCの設立趣旨

土地、植物、動物及びそれらを取り巻く環境を生命系として教育・研究を行うとともに、これらの研究成果を通して、広く地域社会の発展に寄与することを目的とする。

十和田農場から

妊娠職員の補充臨時職員の自己紹介

こんにちは。

7月1日から十和田農場で働かせていただいている荻野由佳と申します。岩城ゆいさんが妊娠されたため、ピンチヒッターとして勤務することになりました。

実は、北里の動物資源科学科の卒業生（平成16卒）です。出産、子育てのためにしばらく3人（5歳、2歳、1歳）のママ業に専念していましたが、末っ子の乳離れを機に社会復帰することにしました。また動物と関わることができる仕事に就きたいと思っていたので、採用していただいてすごくうれしかったです。

養豚場（分娩舎勤務）や、青年海外協力隊員としてフィリピンで豚の人工授精を教えていた経験はありますが、牛や山羊、羊を飼育した経験はないため勉強の毎日です。

他のスタッフの皆さんのように知識・技術を身につけて、少しでも早く戦力になれるようにがんばりたいと思います。



平成28年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会@香川大学

9月7日、8日に、香川県高松市で平成28年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会が開催され、十和田農場から畔柳先生と岩城が出席してきました。

教育研究集会シンポジウムとして「希少糖の農業に対する応用」と題して2名の先生のご講演があり、香川大学農学部発祥の希少糖の研究の成果と可能性について貴重なお

話を伺うことができました。一地方大学から世界へ向けた研究を行っていることにとても驚きました。誰も注目しなかったことについて地道に研究をつづけた何森健先生をはじめ、多様な発想をもって希少糖の多角的な効果を立証された秋光和也先生、先見の目をもって未知の可能性を見出し、大学一丸となった研究を奨めた香川大学の偉大さに感動しました。

二日目には、香川県農業試験場と何森先生が立ち上げた希少糖生産技術研究所を視察しました。農業試験場は平成 23 年度に移設された新しい施設で、地場産品の維持継承を行いつつ工業的な新しい農業の形を実証しておられました。

希少糖生産技術研究所は、香川県内の限界集落に残された廃校舎を再利用して立ち上げられた山奥の小さな施設ですが、世界的な研究と生産が行われており、さらに地元の高齢者を雇用し地域にも貢献した施設となりました。

地元の高齢者が白衣をまとい無菌処理された器具を用いて生産された希少糖のものが、世界の注目を集めていることに農学の面白さを感じました。



左上：何森先生のご講演

右上：希少糖生産技術研究所での作業風景

左下：地元の高齢者を雇用し「希少糖の木、ズイナ」を培養している

ヘレフォード種も後継メスが誕生

9月5日にヘレフォード種のお産がありました。事故もなく元気な子牛を産んでくれました。初産は生まれた子牛がオスだったため、残念ながら十和田農場には残さずによそに譲渡しましたが、2産目の今回は見事メスを生んでくれたので、無事に後継ヘレフォード種として十和田農場で長い時を過ごすことになりそうです。

ヘレフォード種はイギリス原産の肉用種で、大型で飼いやすいため世界で幅広く飼養されている牛ですが、日本ではまず見ることはできない珍しい品種です。十和田農場にいたヘレフォードは不妊だったため、2012年度に八雲牧場から移管し維持してきました。

生まれたヘレフォードは生時体重 35 kgの健康的な子牛です。「ノーザンホーム ミスベンティ ハナエ」と名付けられました。これからしばらく親子で過ごし、生後6か月

ころに離乳し、一人前になるまでにブラッシングや引き運動をして実習に使えるように慣らしていきます。

ちなみに、同じ時期に黒毛和種 2 腹の分娩がありました。どちらもオスだったので、除角去勢をして、10 カ月齢時にベンティちゃんとはお別れし、て、子牛市場に出荷することになります。運よくベンティちゃんは、メスで無角ヘレフォード種のため痛い思いはせずに済みそうです。皆さんにたくさん触れ合ってもらって、優しい牛になることを祈ります。



左上：生まれたばかりのヘレフォード
右上：同じ時期に生まれた黒毛和種と
ツーショット
左下：ヘレフォード親子

八雲牧場から 学生実習終了

今年の牧場実習は、7月4日の生物環境科学科を皮切りに動物資源科学科、医学部と次々に来場し、9月のヤマザキ学園大学を最後に今年度の学生実習を無事に終了することができました。

最近の異常気象により、牧場実習中にも豪雨や台風などがあり、医学部の1班目の終了日には台風の影響による暴風の発生で、実習所が終日停電になるなど大変な夜となりました。翌朝には実習所までの道路が倒木や倒れた電信柱で塞がれ、その処理が追い付かず、貸し切りバスが走行できるところまで学生と荷物を送り届けるなど学生にとっては一生に一度あるかないかの体験だったことから、一生忘れることのない実習となったのではないのでしょうか。



道路に横たわった倒木

北海道・東北ブロック大学附属農場協議会 in 八雲 (7/14~15)

2年に1度開催されている北海道・東北ブロック大学附属農場協議会ならびに教育研究集会が、今年度は北里大学が幹事校となり、八雲で開催されました。

一日目の農場協議会と教育研究集会は、八雲町はぴあ・コミセンホールで行われ、教育研究集会では、十和田農場からは岩城さん、久保田さん、八雲牧場からは森岡さん、

佐藤さんが発表を行いました。二日目の現地検討会では八雲牧場を視察して頂きました。来場された方々は大変興味を持たれ小笠原助教の試験研究の内容や現場の職員の説明に耳を傾けておられました。



チェーンソー安全教育を受講（9/23～24）

今年度の台風の影響による北海道における倒木は、約8割が八雲町など道南地域とされています。八雲牧場内でも多数の倒木被害がありました。また、春の牧草地管理や牧柵管理に必要な木材加工に、チェーンソーを以前から利用してきました。本来チェーンソーの使用にあたっては、安全教育の受講が必要であったことから、これを契機に、佐藤職員と小野係長で本教育課程を受講しました。

今回の受講は、大径木75cm以上の木も処理できる講習会で、一日目は安全教育、二日目は実地教育（目立ての方法、切り倒しの方法）などを学んできました。これからは安全に十分留意し実施していかなくてはならないことを、改めて認識してまいりました。



（編集担当：畔柳 正）